

「事業名：大阪大学 浜通り地域共創人材育成・定着推進事業」

大阪大学 連携市町村：大熊町、飯館村、双葉町

現地拠点：大阪大学福島拠点（福島県双葉郡大熊町字清水309番地） 常駐スタッフ2名・年間240日稼働

事業のポイント

- 「復興知」の継承と発展：2016年から続く「浜通り環境放射線研修」を基軸に、科学的エビデンスに基づく復興評価と、地域住民との対話を融合。
- 多層的なプログラム構成：初学者向けの「放射線研修」から、経験者向けの「社会技術研修（リスクコミュニケーション）」、さらに深化させた「学生自主研究班（科学班・キウイ班等）」へとステップアップする構造。
- 国際的な発信力：IAEA（国際原子力機関）やIEEE等と連携し、英語による成果発信や国際版研修を通じて、浜通りの現状を世界へ共有。稼働中
- 大阪大学福島拠点（大熊町）の常駐スタッフ2名が年間240日体制で連携町村との連絡調整・学生受入を担当



人材育成・定着計画及び目標

◆事業全体 5年目最終年度目標

- ①人材育成：浜通りでのフィールドワーク参加者 延べ 1,800名以上。
- ②地域定着：本事業をきっかけとした就職・移住者 累計 11名（目標：大熊 5、飯館 3、双葉 3）。
- ③関係人口：卒業後も継続的に地域に関与する「高度専門関係人口」累計 15名（各町村5名）。



2026年度の活動内容

◆大学生の人材育成プログラム

【No.1、2】浜通り環境放射線研修（日本語、国際・英語）：

- 7～9月に計180名規模（大熊 50、飯館 50、双葉 50、国際 30）の実習を実施。
- 空間線量測定、試料採取、住民交流、成果発表会を各町村で展開。

【No.3】社会技術研修（発展型研修、飯館・双葉等）：8～9月リスクコミュニケーションを主眼とした対話型実習。

【No.4、5、6】学生研究班（大熊中心）：科学班、キウイ班、観光班（和大連携）による継続的な活動。

【No.7】Scientific Visit（専門家向け短期実習）：国内外の研究者・専門家 5名を対象に実施を調整中。

【No.8】めばえ適塾×大学生指導プログラム：学び舎ゆめの森と連携した放射線・自然科学プログラム。

◆地域・一般向け公開プログラム

【No.9】大阪大学浜通り無料公開講座（ハイブリッド年4回）

- 第1回：2026年5月29・30日「放射線と生活」無料・誰でも参加可
- 【No.10】地域産業・まちづくり共創ワークショップ（年1回）
- 若手移住者と学生が協働し、新産業やまちづくりを議論。

取組によって得られる成果

- 科学的復興評価の蓄積：長期的なモニタリングデータの蓄積により、帰還困難区域等の安全性や環境回復を科学的に立証。
- 次世代の専門家育成：放射線防護、社会技術、地域再生の各分野で、現場を知る実務的リーダーを輩出。
- 地域の信頼醸成：大学の専門知と地域の経験知を融合させ、風評被害の払拭と持続可能なコミュニティ再生に寄与。

